

父母について（少年初段）

平成 29 年 9 月 16 日
西東京本部浜田山支部
藤井 祥

ぼくが空手を始めたきっかけは兄と父が習っていたからでした。幼稚園の年少組の時は兄と父だけが練習に出かけていくので、「自分もいっしょに行く」といって泣いていたそうです。それからいっしょにつれていってもらうようになりましたが、まだ見学のときは、練習に参加するのは最初だけで、後半は寝ていたそうです。

その後、幼稚園の年中組になって、正式に入門して本格的に練習が始まりました。最初は兄の色帯がうらやましくて、早く追いつきたいと思ってがんばりました。父も「祥のほうが力強くてセンスがあるかもしれないな」とほめてくれました。形よりも組手がおもしろくて、すぐに組手試合にも出てがんばりました。

でも、兄が中学受験で練習をお休みすることになって、父とぼくのふたりだけで練習に行くようになってから、すこしやる気がなくなっていました。かぜをひいたり、持病の頭痛が続いたりして、しばらくお休みすることもありました。昇級も茶帯のまま止まってしまいました。

でも父と母が「せっかくここまでがんばったんだから黒帯をとろうよ。黒帯がとれたら自信につながるよ」とはげましてくれました。そこで「今年中に黒帯をとる」という目標を立ててがんばることにしました。

ぼくは人前に出ることがはずかしくて苦手です。胸がドキドキしてきんちょうしてしまい、大きな声が出なくなってしまう。頭が痛くなって調子が悪くなるときもあります。でも黒帯になるので、空手の練習で少しずつなおしていきたいとおもいます。小さい子に大きな声を出して教えてあげられるようになるのが目標です。

市川先生、支部長や教えてくれたみなさん、お父さん、お母さん、ありがとうございました。